

〈高等部〉

＜学部研究テーマ＞

生徒が自ら選び、自ら取り組むことのできる授業作り

ア テーマ設定の理由

高等部には「選択教科」があり、自分で希望の教科を選ぶため、意欲的に学習活動に取り組む生徒が多い。そのため、選択教科を学部研究の実践の場とし、各教科で主体的に取り組む姿について検討した。その結果、生徒が自ら選ぶことが共通ワードとしてあげられ、「自ら選ぶ」、「自分でやってみる」をキーワードとして設定した。

また卒業後の生活を見据え、仕事や余暇について自分で決める力を身に付けられるよう、キーワードを基に「生徒が自ら選び、自ら取り組むことのできる授業作り」を高等部研究テーマに設定した。

イ 研究計画

4月	第1回全校研究会
5月	2年次の方針確認、授業改善シートの様式検討（選択教科）
6月	評価方法の検討及び授業改善シートの活用（選択教科）
7月	
9月	
10月	
11月	開かれた授業研究会（高等部：選択美術）
12月	授業改善シートの振り返り
1月	2年次のまとめ
2月	第2回全校研究会

ウ 実践内容

2年次の研究は大きな目標として授業改善シートの作成と授業実践を行った。

選択教科を実践の場として設定し、授業改善のツールの一つとして、「自ら学ぶ」「自ら取り組むことのできる」キーワードを基に、授業改善シートを作成した。改善シートの内容は個別の指導計画で計画した目標と支援内容を使用し、授業での様子や改善しなければいけないことなどを記入できるようにシートを作成した。8月から授業改善シートの活用を始め、教科担当内の情報共有を図りながら、テーマ達成を目指した授業づくりを進めた。

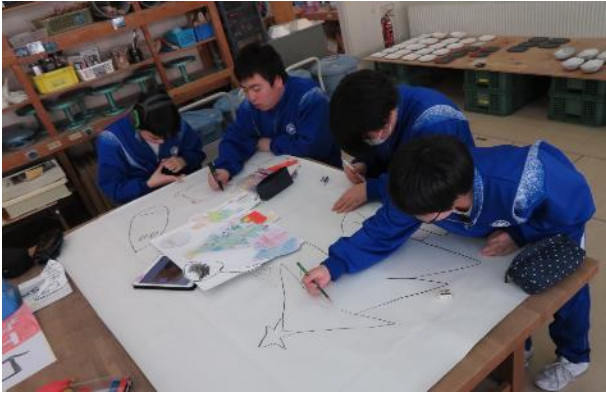
【開かれた授業研究会】選択教科「美術」 単元名：階段アートを描こう

選択美術では共同制作として、階段アートの制作を行った。「冬」というテーマに沿ってキーワードを出し合い、友達の意見も参考にしながら各自アイディアスケッチを描いた。キーワードを出す場面では友達の出したキーワードを聞いてそれに関連した物を答えるなど、お互いの意見を聞く場面が見られた。また、用具の場所を固定することで準備・後片付けを生徒たちだけで行えるようにすることにより、自ら準備を行う様子があり、主体性ある活動につながっていた。

授業研究会では、キーワードを出し合う場面について、教師と生徒のやりとりに終始していたため、生徒同士で話し合う場面も設けてはどうかという意見や、最後に自分の描いた絵について説明する場面があってもよかったと意見を頂き、授業改善を行った。

アイディアスケッチなどの個人で活動する場面では、授業の組み立てやTTの役割分担を事前に打ち合わせをし、個別の支援が必要な生徒だけではなく教科担当の先生全員で制作活動を見守りながら授業を進めていくことが必要だと感じた。

高等部授業改善シート



教科名・単元名		写真撮影してみよう	
単元の目標		1.タブレット端末を使った写真撮影の方法を知ることができる。(知識・技能) 2.タブレット端末を使い校内の写真を撮影することができる。(思考・判断・表現) 3.撮影したいものを選ぶことができる。(学びに向かう力・主体性)	
活動内容		活動の工夫	
タブレット端末の使い方、撮影時の注意点について話を聞く 写真撮影 自分のベスト写真を選ぶ		一人で撮影ができるよう、初めにタブレット端末の使い方について説明し、練習時間を設ける。 活動グループを3つに分け、ある程度自由に撮影できるようにする。 活動の振り返りができよう、撮影後に自分のベスト写真を選ぶ時間をとる。	
生徒名	個別の目標	支援の手立て	支援の振り返り
	楽しみながら、写真撮影をすることができよう。	一人で撮影ができるよう、初めにタブレット端末の使い方について説明し、練習時間を設ける。 写真撮影時のマナーについて提供する。	◎ 一人で自由に撮影を楽しんでいた。 ◎ 友達の写真も自ら作り出した。自動切りも使っていた。
	教師の支援を得て、写真撮影をスムーズに行なう。	一人で撮影ができるよう、初めにタブレット端末の使い方について説明し、練習時間を設ける。	◎ 連写機能が発見し、撮影を楽しんでいた。

●その他の教科（各教科に授業改善シートなどで挙げられた授業改善）

選択教科「音楽」・・・声の音色や発生を意識して歌唱に取り組むことができる目標を設定した生徒が、曲の背景や歌詞の意味に触れた。結果として言葉の説明だけでは理解が難しかったため、2種類の違う映像を見せる活動を行った。結果、歌い方の変化を付けられるようになり、自信につながった。そのあとの活動では、独唱にも積極的に参加するなど主体性ある取り組みに変わった。

選択教科「家庭」・・・調理活動では、自分の行う役割を理解して作業を進めることができる目標を設定した生徒が、9月までは一緒に役割分担しながら調理活動をしていたが、落ち着きがなくなり2回授業へ参加することができなくなった。そこで活動を別におこない、調理活動ではホットケーキと固定し時間を決め、小物づくり、部品の組み立て、散歩という形をとったところ、授業の見通しを持つことができ落ち着いて取り組むことができるようになった。

選択教科「体育」・・・ラジオ体操では、初めはラジオ体操係を決め、係の模範を見ながらの体操だったが、全体の動きが小さく消極的な体操が見られた。そこでラジオ体操を一つ一つ体操の仕方を詳しく説明する場面を設けた。意識が高くなり、手足を大きく動かすことができるようになった。さらに2人ペアで向かい合って行うことにより、相手を意識しながら自分の動きを確認し、手足を大きく動かしながら体操できるようになった。

各教科、授業改善シートや教科担当間で話し合いをするなどしながら、授業改善を行い、授業づくりを行った。

エ 成果と課題

(ア) 成果

- ・授業改善シートを各教科で活用することで、生徒の様子を共通理解することができ、次の授業に生かすことができた教科も見られ、授業改善のスピードにもつながった
- ・各教科の実例もPDCAサイクルに基づき、授業改善シートを活用し、教科内で話し合いを繰り返し行い授業改善するなど、授業づくりに繋げることができた。その他にも授業改善している場面が多数あり、2年次の研究が深まっている。
- ・授業改善シートを使ったことで個別の支援が充実することができた。さらに複数の視点で様々な角度から生徒を見ることができ、他の教師の気付きにつながり、授業づくりに繋げることができた。
- ・少人数の教科もあり、教師の目が届きやすく指導しやすい教科も見られた。

(イ) 課題

- ・授業改善シートのみでの授業改善は困難であり、書くだけでなく、教科担当間で話し合う場が必要である。
- ・実態差が大きいことから、授業内容の組み立てをさらに工夫し一人一人が主体的に取り組むことができるように支援の内容や教材を工夫していかなければならない。

- ・改善シートだけに頼らず、短時間でも事前事後の打合せや反省が授業改善に必要という意見も多数あった。
- ・单元ごとの改善シートだったため、次の单元で授業改善が活用されづらいこともあり、单元内でのシート活用のほか活用方法を各教科で検討しなければならないと意見があった。
- ・教科にかかわる教師の分担や、T1頼りにならないようにしなければならないなどの課題も挙げられた。
- ・教科によっては人数が少なく予算が足りない等の課題もあげられた。(その他の課題)

オ 次年度へ向けて

各教科、单元ごとに授業改善シートを基にして話し合う機会を設定し、個に応じた指導ができるように授業改善を図りたい。さらに教師間で共通理解する場（授業内外）でのコミュニケーションを大切にする。3年次の研究日は授業改善シートを振り返りの一つのツールとして活用をしながら話し合いを進めていき、より多くの授業改善を図りながら主体的に活動できる授業づくりをする。研究として授業改善の機会の蓄積を図り、他教科の授業改善の内容を共有できるリストを作成していきたい。また、以前から行われていた活用ファイルへの記入も授業改善シートから転記することができるなど、授業改善シートを活用しながら授業づくりができるように研究の充実を図りたい。